

保健体育科教育実習生における不安と運動部活動との関係

Anxiety of trainee teacher of health physical education department and relation to sports clubs

体育学部体育学科

大西 努

ONISHI, Tsutomu

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

田原 陽介

TAHARA, Yosuke

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

梅寄 周毅

UMEZAKI, Shuki

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

キーワード：教育実習不安，運動部活動，保健体育科

Abstract : The student teaching leads to much extremely for the student who aims at the teacher. The purpose of the research clarifies “Anxiety for Teaching Practice” that the trainee teacher of the health physical education department holds. And, it is in the movement part activity and what relation or it clarifies it.

The following four findings were obtained from the results of the analysis.

The trainee teacher of the health physical education department

- ①As for “Teaching practice power”, uneasiness is high.
- ②As for “Teaching practice uneasiness” and “Class preparation uneasiness”, the score is high.
- ③The student who doesn't belong to sports clubs is high tendency “Anxiety for Teaching practice”.
- ④Especially, trainee teacher feels insecurity “participates sports clubs”, “Communications with student”

Keywords : Anxiety for Teaching Practice, Sports Club Activities, Health and Physical Education

I. 問題の所在と研究の目的

教育職員免許状を取得しようとする大学生にとって、教育実習は必須条件である。教育実習は、実際の学校において、学習指導や生徒指導にあたり、よりよい授業の進め方や、子ども一人一人の対応の仕方、遊びや生活の実態把握のための活動等、様々な体験を積むことになる。これは、それまで教えてもらう経験しかもたない学生が、教師として、初めて教える立場になるという体験でもある。したがって、教育実習前、あるいは教育実習中に、学生は大きな期待感を持つとともに、多くの不安感や強い緊張感を抱くと考えられる。

実習生が抱く教育実習の不安を明らかにすることに

よって、今後、実習指導の体制を整えるための情報が得られる。1989年の教育職員免許法の改正により、「教育実習事前事後指導」が必修科目に含まれ、今日、大学の教職課程に対して教育実践的な教師教育が期待されている。そのような授業展開に関しての基礎資料となるであろう。

学生の教育実習に対する不安は「教育実習不安」と呼ばれている。これまで、教育実習不安を様々な観点から研究が行われてきている。教育実習不安の構造については、大野木・宮川⁷⁾は教職志望の大学生がもつ教育実習不安を調査し、「授業実践力」、「児童・生徒関係」、「体調」、「身だしなみ」の4因子を抽出した。また、石井・井上⁴⁾は、「教育実習不安」の有無が教育実習への適応に影響を及ぼすことなどが報告さ

れている。

中でも、長谷川ら^{1) 2) 3)}は、「教育実習不安」の様相を明らかにすることを目的に、教育実習全般、指導案作成、授業の実施等に関わる設問を作成し、教育実習前、実習直前、実習中、実習後の4回にわたる調査によって、教育実習不安の推移を継続して検討している。

また、持留・有馬⁶⁾は、教育実習前後の個人的教師効力感、および一般的教師効力感を比較し、教育実習が個人的教師効力感を高めることを示している。

しかし従来の研究において、保健体育科の教育実習不安についての特徴や、それにはどのような内容が影響を及ぼしているのかということについては明らかにされていない。

そこで本稿では、保健体育科で教育実習を行う上で教育実習不安について測定し、それらが運動部活動所属とどのような関係にあるのか明らかにすることを目的とする。

II. 研究の方法

1. 被調査者

A大学体育学部在籍する学生で、中学校・高等学校で教育実習を行う予定である121名（男82名、女39名）であった。

2. 調査内容

本研究の調査は質問紙法が用いられた。質問紙は以下の内容で構成されている。

①教育実習不安に関する調査

大野木・宮川⁷⁾が作成した教育実習不安尺度の49項目が用いられた。教育実習不安に関する調査については、「今のあなたの考え方にあてはまるかどうかを判断してください」の教示のもとで評定が求められた。評定は「はい」「どちらともいえない」「いいえ」の順に3, 2, 1と得点化された。

②運動部活動に関する調査

現在の部活動の状況を把握するため、運動部活動加入の有無を質問した。

3. 手続き

本研究の調査は、平成24年12月の教職関連科目の授業の時間に一斉に実施された。

III. 結果と考察

1. 教育実習不安の構造

教育実習不安について、既に大野木・宮川⁷⁾によって明らかにされている4因子を参考に、それぞれの項目、因子別に平均値を算出した（表1）。ここでは、各因子におけるその構造を検討する。

表1 教育実習不安因子別 平均値

項目	平均値	グループ 平均値
【授業実践力】		
9 教え方が未熟で授業をきいてもらえないのではないかと不安だ	2.49	2.37
27 うまく授業をすることができず取り乱しそうだ	2.14	
28 手際よく実験指導・実技指導ができないのではないかと不安だ	2.40	
33 生徒にわかりやすい授業ができるかどうか不安だ	2.75	
41 生徒の雑談が多くなり収集がつかなくなりそうだ	2.01	
43 授業中に予想外の質問がでたらパニックになるのではないかと不安だ	2.27	
48 子どもたちが自分の授業をきちんと理解してくれるかと不安だ	2.50	
【児童・生徒関係】		
1 生徒にいじめられるのではないかと不安だ	1.39	1.85
6 今までと違う環境なので適応できないかもしれない	2.18	
14 生徒たちとうまくやっていけるか心配だ	1.88	
29 人前で話すこと自体が不安である	2.10	
36 授業の途中で失敗をして生徒に馬鹿にされるのではないかと不安だ	1.85	
42 教育実習生なので生徒がなめてかかってくるのが心配	1.87	
46 内気なので学校側とうまくやっていけないのではないかと不安だ	1.65	

【体調】		
7	遅くまで残ることに体力がもたないかもしれない	1.54
24	連日深夜まで残されて体力的に心配だ	1.72
31	体調が狂いそうである（神経衰弱、胃痛など）	1.55
32	プライベートな時間が減り逃げ出したいくなるのではないか	1.59
37	実習中、病気をしたりするのではないか	1.50
【身だしなみ】		
2	服装・髪型はどんな感じがよいのか不安だ	1.68
3	おしゃれ、アクセサリ、化粧などがどの程度許されるのか気がかりだ	1.36
22	着慣れないネクタイ、ブラウスなどで疲れてしまうと思う	1.74
26	カッターシャツ、洋服などの枚数が足りるだろうか	1.60
30	服装を「教育の場に適さない」と指摘されるのではないか	1.60
45	どのような服装をして行けばよいのか心配	1.56

まず、第一因子の「授業実践力」の下位尺度である7項目の教育実習不安について検討した。この項目は、「教え方が未熟で授業をきいてもらえないのではないか」「授業中に予想外の質問がでたらパニックになるのではないか」といった、授業中の生徒との質疑や授業の教育技術に関する内容で、「授業の実践力」に関する不安である。この7項目については全ての回答で2点を超過しており、平均値2.37となっている。他の因子と比較しても、因子の平均値が2点を超過するのはこの因子だけである。特に「生徒にわかりやすい授業ができるかどうか不安だ」についての回答が2.75、「子どもたちが自分の授業をきちんと理解してくれるか」についての回答が2.50と、高い得点であった。

つぎに、第二因子の「児童・生徒関係」の下位尺度である7項目の教育実習不安について検討した。この項目は、「生徒にいじめられるのではないかと不安だ」や、「人前で話すこと自体が不安である」といった、学校という異環境への適応や人間関係に関する内容で、「児童・生徒関係」に関する不安である。この7項目についての平均値は1.85であった。それぞれの項目に目を向けると、「今までと違う環境なので適応できないかもしれない」についての回答が2.18、「人前で話すこと自体が不安である」について2.10と、2項目が2点を超えた得点であった。一方で、「生徒にいじめられるのではないかと不安だ」についての回答が1.39と、他の項目より低い得点であった。

第三因子の「体調」の下位尺度である5項目の教育実習不安について検討した。この項目は、「遅くまで残ることに体力がもたないかもしれない」や、「実習中、病気をしたりするのではないか」といった、実習中の自身の「体調」に関する不安である。この5項目についての平均値は、1.58であった。それぞれの項目

に目を向けると「連日深夜まで残されて体力的に心配だ」についての回答が1.72とやや高い得点であったが、その他の項目については大きな開きはなかった。

最後に、第四因子の「身だしなみ」の下位尺度である6項目の教育実習不安について検討した。この項目は、「服装・髪型はどんな感じがよいのか不安だ」や、「服装を教育の場に適さない」と指摘されるのではないかと」といった、服装や化粧など「身だしなみ」に関する不安である。この項目についての平均値は1.59であった。それぞれの項目については、大きな開きはなかった。

2. 保健体育科の教育実習不安における特徴

ここでは、質問紙の結果から、特に得点の高かった項目を記述しその特徴を検討する。質問紙の回答で得点の高い（2.50以上）ものを抽出した結果、7項目が該当した（表2）。その7項目を分析した結果、2つにカテゴリされた。

表2 教育実習不安 高得点項目

n=121		
4	指導の先生に好まれる指導案が立てられるか心配だ	2.51
5	予想しなかった方向に授業が進み混乱するのではないか	2.50
9	教え方が未熟で授業をきいてもらえないのではないか	2.52
10	授業に必要な専門知識が不足しているのかもしれない	2.72
11	教材研究が十分にできずに臨んでしまうのではないか	2.58
33	生徒にわかりやすい授業ができるかどうか不安だ	2.75
48	子どもたちが自分の授業をきちんと理解してくれるか	2.50

一つ目は、「予想しなかった方向に授業が進み混乱するのではないか」「教え方が未熟で授業をきいてももらえないのではないか」「生徒にわかりやすい授業ができるか不安だ」「子どもたちが自分の授業がきちんと理解してくれるか」といった項目に見られる、「授業実践不安」である。

二つ目は、「授業に必要な専門知識が不足しているかもしれない」「教材研究が十分にできずにのぞんでしまうのではないか」「指導の先生に好まれる指導案が立てられるか心配だ」といった項目に見られる、「授業準備不安」である。

一方で、西松⁵⁾などが指摘している教育実習生不安の「児童生徒関係不安」の項目について、「生徒にいじめられるのではないか不安だ」(1.39)や、「生徒たちとうまくやっていけるか心配だ」(1.88)など、得点は高くない。これには、保健体育科の教員免許取得を目指す学生の運動部活動経験と関係があることが考察できる。保健体育科の教員免許を目指す学生は、

その多くが中学校・高等学校で運動部活動を経験している。運動部活動は、目標に向けて部員同士が協力し、時には後輩へ指導や助言等を行い、生徒・学生達が自主的に運営する活動である。その中で、指導者や部員同士で関係をきずく経験を豊富にしていることが考えられる。他の教科の教育実習生と比較し、コミュニケーション能力そのものが優れているわけではないが、他者との関係をきずく経験が豊富なことは否定できない。そのような背景から、他の教科の教育実習生が抱く「児童生徒関係不安」については、保健体育科の教育実習生は不安に感じていないと考えられる。

3. 教育実習不安と部活動の関係

教育実習不安と部活動の関係を検討するため、現在まで運動部活動に所属している学生を所属群(69名)、運動部活動に未所属の学生を非所属群(52名)とし、t検定を行った。分析の結果、7項目において有意差が見られた。(表3)

表3 教育実習不安と運動部活動所属との関係

n=121

項目	有意確率	有意差
10 生徒たちとうまくやっていけるか心配だ	0.008	***
16 部活動に参加するのはいやなので態度に出そうで心配だ	0.003	***
25 指導案の書き方がよくわかっていないので心配だ	0.073	*
28 手際よく実験指導・実技指導ができないのではない	0.041	**
32 プライベートな時間が減り逃げ出したくなるのではない	0.037	**
41 生徒の雑談が多くなり収集がつかなくなりそう	0.071	*
44 授業の資料教材がうまく手に入るか不安だ	0.042	**

* p<0.1 **p<0.05 *** p<0.01

有意差のあった項目に目を向けると、「部活動に参加するのはいやなので態度に出そうで心配だ」「生徒たちとうまくやっていけるか心配だ」の項目について、1%水準で有意な差が示された。

「部活動に参加するのはいやなので態度に出そうで心配だ」については、運動部活動に所属していない非所属群の方が不安に感じている。これは、所属群は日々の運動部活動により放課後の活動に慣れているため、部活動に参加することをいやと思わないが、一方で非所属群は現在運動部活動に所属していないため、活動に参加することに対して不安に感じていると考えられる。

また、「生徒たちとうまくやっていけるか心配だ」については、運動部活動に所属していない下位群の方

が不安に感じている。これは、所属群は日々の運動部活動の中で、顧問や部員同士とのコミュニケーションを取り部活動を行っているためであると考えられる。さらに、体育会部活動の多くは、高校生と合同練習を行い、小学生に対してクリニック開催等の活動や指導経験によって、生徒・児童と同じ年代の子ども達とのコミュニケーションをとる量が、非所属群と比べて多いためであることが考えられる。

その他の項目についても、運動部活動に参加していない非所属群の方が有意に不安に感じていることが示された。

IV. まとめにかえて

本研究の目的は、保健体育科の教育実習に行く学生の不安に着目し、その特徴と運動部活動経験による影響を検討することにある。

まず、教育実習不安ですでに示されている4因子について、それぞれの項目を検討した結果、「授業実践力」についての不安が高いことが示された。また、教育実習不安に関する項目を度数分布から検討した結果、7つの特に不安に感じている項目が示された。それらは「授業実践不安」と「授業準備不安」に分類できた。これらを総合的に分析すると、保健体育科の教育実習を行う学生は、授業の実践とその準備について特に不安に感じていることがわかった。体育の授業実践については、実際に体育館やグラウンドにでて生徒に授業を展開していく。その中で、ただ運動に関する知識を教授するだけではなく、運動の場を整え、そこで生徒が体を動かし学習し、尚且つ運動のもつ魅力を感じることを求められる。また、自分の得意としている種目だけではなく、苦手な種目の授業も同様に展開することが求められる。その様な複合的な要素により、学生は自らが教育実習を行う上で、その準備と実践がうまくいくのか不安であると考察できる。

また、運動部活動所属の有無が保健体育科の教育実習不安に影響を及ぼすことが示された。現在運動部活動に所属している学生は、所属していない学生に比べ教育実習不安が少ないことがわかった。特に、部活動参加への不安や生徒とのコミュニケーションについての項目で、運動部活動所属者は不安を感じにくい。運動部活動非所属者にとって、教育実習先での部活動は非日常であり、それらの環境に適應する事に対して不安を感じると考えられる。また、運動部活動所属者は日常の活動で、部員やコーチなどとコミュニケーションをとれる環境にあるため、コミュニケーションに関する不安は少ないと考えられる。

以上の考察を踏まえ、教育実習不安について大学における教師教育の示唆を述べる。1989年の教育職員免許法の改正により、「教育実習事前事後指導」が必修科目に含まれ、いま、大学の教職課程に対して教育実践的な教師教育が期待されている。それに対して、本研究は、教師教育の現場への具体的・基礎的な資料と考えられる。「授業実践力」に関する不安は、教科の専門的力量が必要であることから、保健体育科指導法や各実技等で十分な知識を得る必要があるだろう。また、運動部活動からいくつかの教育実習不安が低減さ

れることから、運動部活動を積極的に教師教育へ活用することが求められるであろう。

最後に、今後の課題の1つとして、教育実習不安について保健体育科の実習前後でどのように変化するか検討がされるべきである。教育実習不安と教師志望度の関係性から、教育実習そのものの効果の検証が必要であろう。また、今回の研究では大野木・宮川⁷⁾の教育実習不安尺度を参考に調査を行ったが、保健体育科特有の教育実習不安尺度の作成が急がれる。

引用文献

- 1) 長谷川順一・浅野文恵 (2005), 学校教育教員養成課程3年次生の教育実習不安－教育新時代を目指して－, 教科教育学研究, 第23集, pp121-132
- 2) 長谷川順一・浅野文恵 (2006), 学校教育教員養成課程3年次生の教育実習不安(2)－専攻強化と専攻以外の小学校強化についての指導案作成と授業の実施－, 香川大学教育実践総合研究, 第12号, pp35-45
- 3) 長谷川順一・浅野文恵 (2007), 学校教育教員養成課程3年次生の教育実習不安(3)－教科の授業以外の事項について－, 香川大学教育実践総合研究, 第16号, pp181-188
- 4) 石井眞治・井上弥 (1988), 教育実習に関する不安が実習生活への適應に及ぼす効果, 広島大学学校教育学部紀要, 第I部, 第11巻
- 5) 西松秀樹 (2008), 教師効力感, 教育実習不安, 教師志望度に及ぼす教育実習の効果, キャリア教育研究, 第25巻, pp89-96
- 6) 持留英世・有馬広海 (1999), 教師効力に及ぼす教育十種効果, 福岡教育大学紀要, 第48巻, pp303-309
- 7) 大野木裕明・宮川充司 (1996), 教育実習不安の構造と変化, 教育心理学研究, 第44巻, 第4号, pp87-95